

【専門分野】

科目	単位 (時間数)	年次	開講時期	担当者
※看護学概論	1 (30)	1	第1学期	副学校長
目 標				
1. 看護学の基礎概念である人間、環境、健康、看護の概念と、看護援助の本質について理解する 2. 専門職としての看護の役割と看護活動の実際を理解する				
ディプロマポリシーとの関連：DP2、DP1、DP7、DP4、DP5、DP6 の達成に寄与				
回	時間	授業内容	授業方法	備考
1	2	1. 看護とは 1) 看護の定義 2) 看護学のメタパラダイム (人間・健康・環境・看護)	講義	
2	2	3) 看護学のメタパラダイム (演習)	演習	
3	2	4) 看護学のメタパラダイム (発表)・まとめ	演習	
4	2	2. 看護の対象の理解 1) 看護の対象としての人間の理解	講義	
5	2	3. 看護実践のための理論 1) 看護理論とは 2) フローレンス・ナイチンゲール、ヴァージニア・ヘンダーソン	講義	
6	2	3) 看護理論家とその理論 ※理論家を1人選び、理解を深める	演習 (GW)	
7	1	4) 看護理論家と看護理論・看護場面での活用	演習 (GW)	
8	2	5) 看護理論家と看護理論・看護場面での活用 (発表)	演習	
9	2	4. 看護の役割と機能 1) 看護ケアについて 2) 看護実践とその質保証に必要な要件 3) 看護の役割・機能の拡大	講義	
10	2	5. 看護の専門性とキャリア開発 1) 職業としての看護 2) 看護職の資格・養成制度・就業状況 3) 看護の業務拡大	講義	
11	2	4) 看護職者の継続教育とキャリア開発	講義 演習	
12	2	6. 看護の提供のしくみ 1) サービスとしての看護 2) 看護サービス提供の場 3) 継続看護 4) 看護サービスの管理 5) 多職種連携と看護職の役割	講義	
13	2	7. 看護における倫理 1) 看護倫理 2) 倫理原則とケアの倫理 3) 看護実践場面での倫理的問題、問題への取り組み	講義 演習 (GW)	
14	2	3) 看護実践場面での倫理的問題、問題への取り組み (発表)	演習	
15	2	8. 広がる看護の活動領域 1) 国際化と看護 2) 災害時における看護	講義	
16	1	終講試験		
授業形態	講義および演習			
評価方法 点数配分	筆記試験 60点、講義での提出物・課題レポート40点 (看護理論10・闘病記15・看護覚え書15) 他の事項については履修規程の第5条、第6条に定めるとおりとする			
テキスト	基礎看護学 (1) 看護学概論：医学書院 やさしく学ぶ看護理論：日総研 看護覚え書：現代社 看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実際：ヌーヴェルヒロカワ			
その他	看護学を学ぶ導入になります。個人ワークやグループワークを通して、内容の理解を深めていきます ※この科目は実務経験のある教員による授業科目である			

【専門分野】

科目	単位 (時間数)	年次	開講時期	担当者
※基礎看護技術 I	1 (30)	1	第1学期	教員
目 標				
1. 看護技術のもつ意義を理解し、看護実践の基礎となる安全を守るために必要な基本的知識と技術、態度を学ぶ 2. 看護の共通基本技術であるコミュニケーション技術を習得する				
ディプロマポリシーとの関連：DP3、DP5、DP1、DP2、DP7の達成に寄与				
回	時間	授業内容	授業方法	備考
1	2	1. 看護技術の概念 1) 看護技術の特徴 2) 看護技術の範囲 3) 看護技術を適切に実践するための要素	講義	
2	2	4) 看護技術における安全・安楽① (活動・休息)	GW	
3	2	4) 看護技術における安全・安楽② (清潔・食事・排泄)	GW	
4	1	4) 看護技術における安全・安楽③	講義	
5	2	2. 感染予防 感染予防の基礎知識 1 ①感染成立の条件 ②標準予防策 ③感染性廃棄物について	講義	
6	2	④感染経路別予防策 ⑤洗浄・消毒・滅菌について	講義	
7	2	感染予防の実際 1 ①手指衛生 ②个人防护用具 (手袋・ゴーグル・ガウン) の着脱 ③感染性廃棄物の取り扱い	演習	
8	2	感染予防の基礎知識 2 ⑥無菌操作 ⑦カテーテル関連血流感染について ⑧針刺し防止と対応	講義	
9	2	感染予防の実際 2 ④無菌操作の実際 (・滅菌手袋の装着・滅菌鑷子と滅菌ガーゼの取り扱い) ⑤使用した器具の感染防止の取扱い	演習	
10	2	3. コミュニケーション技術 1) コミュニケーションの意義と目的 2) コミュニケーションの構成要素と成立過程	講義	
11	2	3) 関係構築のためのコミュニケーションの基本 ①接近的コミュニケーションの原理 ②接近的行動と非接近的行動	講義 演習	
12	2	4) 効果的なコミュニケーションの実際 ①傾聴の技術 ②情報収集の技術 ③説明の技術	講義 演習	
13	2	5) コミュニケーション障害への対応	講義 演習	
14	2	6) 看護場面でのコミュニケーション演習	演習	
15	2	7) コミュニケーションの評価 プロセスレコード	講義	
16	1	終講試験		
授業形態	講義および演習			
評価方法 点数配分	筆記試験 100点 他の事項については履修規程の第5条、第6条に定めるとおりとする			
テキスト	基礎看護学 (2) 基礎看護技術 I : 医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 : 医学書院			
その他	※この科目は実務経験のある教員による授業科目である			

【専門分野】

科目	単位（時間数）	年次	開講時期	担当者
※基礎看護技術Ⅱ	1（30）	1	第1学期	教員
目 標				
1. 生理的ニードに対する日常生活援助技術である「環境、活動、休息、睡眠」の援助技術を習得する				
ディプロマポリシーとの関連：DP4、DP5、DP1、DP2の達成に寄与				
回	時間	授業内容	授業方法	備考
1	2	1. 環境を整える援助技術 1) 療養生活の環境 (1) 病棟の構造 (2) 病室の構造と病床の条件 (3) 病床の種類 (4) 環境調整の意義 (5) 療養環境のアセスメントと環境調整の実際	講義	
2	2	2. 活動・休息の援助技術 1) 基本的活動の援助 2) ボディメカニクス 3) 体位保持の援助	講義	
3	2	(1) ボディメカニクスの実際	演習	
4	2	1. 環境を整える援助技術 2) ベッドメイキングの実際 (1) リネン類の準備 (2) クローズドベッドの作成	演習	
5	2	2. 活動・休息の援助技術 4) 体位変換とは (1) 体位変換の目的 (2) 体位変換の留意点 (3) 安静の目的と弊害	講義	
6	2	5) 体位変換の実際 安楽な体位の調整 (1) 水平移動 (2) 仰臥位から側臥位へ (3) 仰臥位から長座位 (4) 長座位から端座位 (5) 端座位から立位	演習	
7	2	6) 臥床患者のシーツ交換と環境調整 (1) 臥床患者のシーツ交換の方法と留意点 (2) 環境調整	講義	
8	2	7) 体位保持（ポジショニング）の実際	演習	
9	2	8) 移動・移送の援助 (1) 移動・移送の援助（車椅子・ストレッチャー） (2) 歩行時の援助（杖・歩行器）	講義	
10	2	9) 移動・移送の援助の実際 (1) ベッドから車椅子への移動と移送	演習	
11	2	10) 移動・移送の援助の実際 (1) ストレッチャーへの移動・移送 (2) 歩行時の援助	演習	
12	2	3. 睡眠と休息の援助 1) 休息とは (1) 休息の意義 (2) 休息の必要性 2) 睡眠とは (1) 睡眠に伴う生理的変化 (2) 睡眠の種類とメカニズム (1) 睡眠を阻害する因子 3) 睡眠と休息への援助 (1) 睡眠障害のアセスメント (2) 睡眠と休息を促す援助（電法含む）	講義	
13	2	1. 環境を整える援助技術 3) 臥床患者のリネン交換の実際	演習	
14	2	4) 快適な療養環境の整備	演習	
15	1	移動の技術（技術試験）	演習	
16	1	終講試験		
授業形態	講義および演習			
評価方法 点数配分	筆記試験 60点 技術試験 40点（筆記試験、技術試験それぞれの6割以上を合格とする） 他の事項については履修規程の第5条、第6条に定めるとおりとする			
テキスト	基礎看護学（3）基礎看護技術Ⅱ：医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術：医学書院			
その他	※この科目は実務経験のある教員による授業科目である			

【専門分野】

科目	単位（時間数）	年次	開講時期	担当者
※基礎看護技術Ⅲ	1（30）	1	第1学期	教員
目 標				
生理的ニードに対する日常生活援助技術である「清潔、衣生活」の援助技術を習得する。				
ディプロマポリシーとの関連：DP4、DP5、DP1、DP2の達成に寄与				
回	時間	授業内容	授業方法	備考
1	2	1. 清潔の援助技術 1) 清潔の援助の基礎知識 ①皮膚・粘膜の構造と機能 ②清潔援助の効果 ③患者の状態に応じた援助の決定と留意点 ④洗剤の種類と特徴	講義	
2	2	2. 病床での衣生活の援助技術 1) 援助の基礎知識 ①衣生活の意義 ②被服気候 ③衣生活を調整する能力のアセスメント ④病衣の選び方 ⑤病衣・寝衣の交換	講義	
3	2	⑥ 寝衣交換の援助の実際：臥床患者の寝衣交換	演習	
4	2	1. 清潔の援助技術 2) 入浴の文化 ①入浴の生理 ②入浴の効果と欠点、安全性 ③入浴・シャワー浴の援助技術	講義	
5	2	3) 手浴・足浴の意義と目的 ⑤手浴・足浴の方法と留意点 4) 整容	講義	
6	2	5) 手浴・足浴・整容（頭髪・顔面）の実際	演習	
7	2	6) 全身清拭が心身へ及ぼす影響 ①全身清拭の目的と方法	講義	
8	2	7) 全身清拭の実際 ①臥床患者の清拭の実際（顔・上肢）	演習	
9	2	②臥床患者の清拭の実際（胸部・腹部・背部・下肢・臀部）	演習	
10	2	8) 陰部洗浄の援助技術 9) 洗髪の援助技術	講義	
11	2	10) 臥床患者の陰部洗浄の実際（陰部モデルを使用）	演習	
12	2	11) 洗髪の実際：臥床患者の洗髪	演習	
13	2	12) 口腔ケア	講義 演習	
14	2	臥床患者の清拭・寝衣交換	演習	
15	1	清拭・寝衣交換の技術（技術試験）	演習	
16	1	終講試験		
授業形態	講義および演習			
評価方法 点数配分	筆記試験 60点 技術試験 40点（筆記試験、技術試験それぞれの6割以上を合格とする） 他の事項については履修規程の第5条、第6条に定めるとおりとする			
テキスト	基礎看護学（3）基礎看護技術Ⅱ：医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術：医学書院			
その他	※この科目は実務経験のある教員による授業科目である			

【専門分野】

科目	単位 (時間数)	年次	開講時期	担当者
※基礎看護技術Ⅳ	1 (30)	1	第1・2学期	教員
目 標				
生理的ニードに対する日常生活援助技術である「食事、排泄」の援助技術を習得する。				
ディプロマポリシーとの関連：DP4、DP5、DP1、DP2の達成に寄与				
回	時間	授業内容	授業方法	備考
1	2	1. 食生活の援助技術 1) 食事援助の基礎知識 ①栄養状態のアセスメント ②食欲のアセスメント	講義	
2	2	③摂食・嚥下能力のアセスメント ④摂食行動のアセスメント ⑤食生活変更の必要性、患者の認識・行動のアセスメント ⑥食生活アセスメント ⑦おいしさ・文化を守る食生活のケア	講義	
3	2	⑥医療施設で提供される食事の種類と形態 2) 食事摂取の介助	講義	
4	2	摂食嚥下機能評価	講義	
5	2	食事介助の実際 (患者誤認防止・食事内容の確認・食事環境の調整・体位調整)	演習	
6	2	3) 非経口的栄養摂取の援助 ①経管栄養法 ②中心静脈栄養法	講義	
7	2	2. 排泄の援助技術 1) 自然排尿および自然排便の基礎知識 ①排泄の意義 ②排泄のメカニズム	講義	
8	2	③排尿・排便・移動動作のアセスメント	講義	
9	2	2) 自然排尿および自然排便の介助 (トイレ・ポータブルトイレ・尿器・便器・おむつ)	講義	
10	2	自然排尿および自然排便の介助の実際 (尿器・便器・ポータブルトイレ)	演習	
11	2	3) 導尿 ①一時的導尿 ②持続的導尿 ③膀胱留置カテーテルの管理	講義	
12	2	一時的導尿の実際	演習	
13	2	4) 排便を促す援助 ①浣腸 ②摘便	講義	
14	2	グリセリン浣腸の実際	演習	
15	1	便秘改善のための看護ケア	講義	
16	1	終講試験		
授業形態	講義および演習			
評価方法 点数配分	筆記試験 100点 他の事項については履修規程の第5条、第6条に定めるとおりとする			
テキスト	基礎看護学 (3) 基礎看護技術Ⅱ : 医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 : 医学書院			
その他	※この科目は実務経験のある教員による授業科目である			

【専門分野】

科目	単位 (時間数)	年次	開講時期	担当者
※基礎看護技術V	1 (30)	1	第1・2学期	教員
目 標				
対象を把握するために看護の共通基本技術であるフィジカルアセスメントに必要な知識と技術を習得する				
ディプロマポリシーとの関連：DP4、DP5、DP1、DP2の達成に寄与				
回	時間	授業内容	授業方法	備考
1	2	1. ヘルスアセスメントとは 2. 健康歴とセルフケア能力のアセスメント 3. 計測	講義	
2	2	4. バイタルサインの観察とアセスメント 1) 体温	講義	
3	2	2) 脈拍 3) 呼吸 4) 意識	講義	
4	2	体温測定・脈拍測定・呼吸測定の実際	演習	
5	2	5) 血圧	講義	
6	2	血圧測定の実際 1 (点検、マンシエットの装着、加圧、減圧)	演習	
7	2	血圧測定の実際 2 (触診法)	演習	
8	2	血圧測定の実際 3 (聴診法)	演習	
9	2	6) バイタルサイン測定の一連 (体温、脈拍、血圧、呼吸測定)	演習	
10	2	5. 系統別フィジカルアセスメント 1) フィジカルアセスメントに必要な技術 (問診・視診・触診・聴診・打診)	講義 演習	
11	2	2) フィジカルイグザミネーションの基礎知識 (呼吸器系・循環器系・消化器系、筋骨格系、脳神経系)	講義	
12	2	3) フィジカルイグザミネーションの実際 (呼吸器系・循環器系・消化器系)	演習	
13	2	4) フィジカルイグザミネーションの実際 (筋骨格系・脳神経系)	演習	
14	2	5) 事例で学ぶフィジカルアセスメント	講義 演習	
15	1	バイタルサイン測定 (技術試験)	演習	
16	1	終講試験		
授業形態	講義および演習			
評価方法 点数配分	筆記試験 60点 技術試験 40点 (筆記試験、技術試験それぞれの6割以上を合格とする) 他の事項については履修規程の第5条、第6条に定めるとおりとする			
テキスト	基礎看護学(2) 基礎看護技術 I : 医学書院 看護がみえるvol.3 フィジカルアセスメント : メディックメディア 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 : 医学書院			
その他	※この科目は実務経験のある教員による授業科目である			

【専門分野】

科目	単位 (時間数)	年次	開講時期	担当者
※基礎看護技術VI	1 (30)	1	第2学期	教員
目 標				
診療に伴う技術である与薬の技術を習得する				
ディプロマポリシーとの関連：DP4、DP5、DP1、DP2の達成に寄与				
回	時間	授業内容	授業方法	備考
1	2	1. 与薬の基礎知識	講義	
2	2	2. 経口与薬を受ける対象への援助	講義	
3	2	3. 経口与薬を受ける対象への援助の実際	演習	
4	2	4. 様々な与薬の方法：吸入・点眼・点鼻・経皮的与薬・直腸内与薬	講義	
5	2	5. 経皮、外用薬の与薬の実際・直腸内与薬の実際	演習	
6	2	6. 注射を受ける対象への援助 1) 注射の基礎知識 2) 皮下注射の実施方法 3) 皮内注射の実施方法 4) 筋肉内注射の実施方法 5) 静脈内注射の実施方法	講義	
7	2	7. 筋肉内注射・皮下注射の実際 注射の準備の実際 (薬液の吸い上げ)	演習	
8	2	8. 点滴静脈内注射 1) 点滴静脈内注射の基礎的知識 2) 点滴静脈内注射の実施方法 3) 点滴静脈内注射を受ける対象の看護 9. 経静脈栄養 1) 経静脈栄養法の種類 2) 中心静脈栄養法の留意点	講義	
9	2	10. 点滴静脈内注射の実際	講義	
10	2	点滴静脈内注射の実際：輸液の準備、輸液セットの接続(アンプル)	演習	
11	2	点滴静脈内注射の実際：輸液の準備、輸液セットの接続(バイアル)	演習	
12	2	点滴静脈内注射の実際：翼状針による点滴静脈内注射、輸液速度の調整	演習	
13	2	点滴静脈内注射の実際 側管からの静脈内注射	演習	
14	2	11. 輸血	講義	
15	1	点滴静脈内注射の実際 (技術試験)	演習	
16	1	終講試験		
授業形態	講義および演習			
評価方法 点数配分	筆記試験 60点 技術試験 40点 (筆記試験、技術試験それぞれの6割以上を合格とする) 他の事項については履修規程の第5条、第6条に定めるとおりとする			
テキスト	基礎看護学(2) 基礎看護技術Ⅰ : 医学書院 基礎看護学(3) 基礎看護学技術Ⅱ : 医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 : 医学書院			
その他	※この科目は実務経験のある教員による授業科目である			

【専門分野】

科目		単位 (時間数)	年次	開講時期	担当者
※基礎看護技術Ⅶ		1 (30)	1	第2学期	教員 院内講師
目 標					
診療に伴う技術である診察・検査・処置に伴う技術を習得する					
ディプロマポリシーとの関連：DP4、DP5、DP1、DP2の達成に寄与					
回	時間	授業内容	授業方法	備考	
1	2	1. 診察・検査に伴う技術 1) 診察・検査の目的 2) 診察・検査をうける対象の心理 3) 診察・検査時の看護師の役割 4) 診察時の援助方法	講義		
2	2	5) 主な検査の概要と看護の要点： 検尿、検便、喀痰	講義		
3	2	5) 主な検査の概要と看護の要点： X線検査、CT、MRI、超音波検査、心電図 肺機能検査	講義		
4	2	5) 主な検査の概要と看護の要点： 核医学検査、血液検査（動脈血、血糖測定）	講義		
5	2	5) 主な検査の概要と看護の要点： 穿刺の検査	講義		
6	2	5) 主な検査の概要と看護の要点 内視鏡検査	講義		
7	2	5) 主な検査の概要と看護の要点 血液検査（静脈血、静脈血採血の方法）	講義		
8	2	6) 採血の実際①（準備、駆血、血管の選択）	演習		
9	2	6) 採血の実際②（消毒、採血実施、止血、後片付け）	演習		
10	2	6) 採血の実際③（一連を通して）	演習		
11	2	7) 心電図検査の実際	演習		
12	2	8) 検査処置を受ける患者の看護・まとめ	講義		
13	2	2. 創傷管理 1) 創傷処置 2) 包帯法 3) 褥瘡予防：褥瘡の基礎知識（同一体位の有害性と廃用症候群）	講義		
14	2	4) 創傷処置（創洗浄・創保護・包帯法の実際） 6) 褥瘡予防援助の実際：体圧分散	演習		
15	1	静脈血採血（技術試験）	演習		
16	1	終講試験			
授業形態	講義および演習				
評価方法 点数配分	筆記試験 60点 技術試験 40点（筆記試験、技術試験それぞれの6割以上を合格とする） 他の事項については履修規程の第5条、第6条に定めるとおりとする				
テキスト	基礎看護学（2）基礎看護技術Ⅰ：医学書院 基礎看護学（3）基礎看護学技術Ⅱ：医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術：医学書院				
その他	※この科目は実務経験のある教員による授業科目である				

【専門分野】

科目	単位 (時間数)	年次	開講時期	担当者
※看護過程展開技術	1 (30)	1	第2学期	教員
目 標				
1. 看護を計画的に実践することの必要性とその展開技術を習得する 2. 看護実践に必要な記録、報告について学ぶ				
ディプロマポリシーとの関連：DP4、DP5、DP2、DP7の達成に寄与				
回	時間	授業内容	授業方法	備考
1	2	1. 看護を展開する技術 1) 看護過程の概念：看護過程の基盤となる考え方 (問題解決過程・クリティカルシンキング)	講義	
2	2	2) 看護過程の各段階 (ヘンダーソンの看護過程を用いて) ①アセスメント・情報収集・アセスメントの枠組み：看護理論と看護過程	講義	
3	2	・情報の整理・分析	講義	
4	2	・情報の整理・分析	講義	
5	2	・全体像の捉え方：全体像の把握、関連図の意義と活用 ②看護問題の明確化 (看護診断) ・看護問題の見極め、種類 ・優先順位 ・共同問題 ・看護問題リストの作成	講義	
6	2	【演習】事例を用いた情報収集 ・各自考えてきた個人ワークをもとにグループで意見交換し、 まとめ、発表	講義 演習	
7	2	【演習】 ヘンダーソンの理論を用いた肺炎の事例の情報の分析、 アセスメント (個人ワークをもとにグループで意見交換)	講義 演習	
8	1	【演習】事例の看護問題の明確化、関連図、看護問題の抽出 (個人ワークをもとにグループで意見交換)	講義 演習	
9	2	【演習】事例のニーズの充足・未充足、看護問題の検討 他グループとの意見交換	講義 演習	
10	2	③看護計画の立案 ・目標 (期待される成果)・計画 (O-P・T-P・E-P) ・クリティカルパスと標準看護計画・NANDA-NOK-NIC ④実施と評価 ・実施前の確認、調整 ・実施 (報告・記録)・実施後の評価、修正	講義	
11	2	⑤看護記録と報告：看護記録とは、看護記録の管理と留意点、報告の目的 【演習】看護計画の立案	講義 演習	
12	1	【演習】看護計画の立案	講義 演習	
13	2	【演習】計画に基づいた援助の実施	演習	
14	2	【演習】計画に基づいた援助の実施 グループ発表	演習	
15	2	【演習】記録・評価 3) 看護過程の展開に必要な考え方 (倫理的配慮と価値判断、リフレクション)	講義 演習	
16	1	終講試験		
授業形態	講義および演習			
評価方法 点数配分	筆記試験 課題 他の事項については履修規程の第5条、第6条に定めるとおりとする			
テキスト	基礎看護学 (2) 基礎看護技術 I : 医学書院 看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践 : ヌーベルヒロカワ			
その他	※この科目は実務経験のある教員による授業科目である			

【専門分野】

科目	単位 (時間数)	年次	開講時期	担当者
※臨床看護論	1 (30)	2	第1学期	教員 院内講師

目 標

1. 治療別及び主要症状に応じた対象を理解し、その状態のアセスメントと必要な援助を理解する
2. 看護場面で活用するための臨床判断の基礎的能力を身につける

ディプロマポリシーとの関連：DP4、DP5、DP2の達成に寄与

回	時間	授業内容	授業方法	備考
1	2	1. 臨床判断の考え方 1) 臨床推論と臨床判断について 2) 臨床判断モデルについて	講義	
2	2	3) 看護師が行う臨床推論と判断の思考過程	講義	
3	2	2. 主要症状別に基づく看護 1) 咳嗽・喀痰のある患者の看護 (1) 咳嗽・喀痰のメカニズム (2) 咳嗽・喀痰を示す患者の観察とアセスメント (3) 排痰援助、吸入、吸引 (鼻腔口腔吸引、気管内吸引)	講義	
4	2	(4) 咳嗽・喀痰を示す患者の呼吸を整える技術の実際 ・気道の確保：排痰援助、吸引 (鼻腔口腔吸引、気管内吸引) ・薬剤の投与：吸入	演習	
5	2	(5) 咳嗽・喀痰を示す患者の臨床判断演習	講義 GW	
6	2	2) 呼吸困難のある患者の看護 (1) 呼吸困難のメカニズム (2) 呼吸困難を示す患者の観察とアセスメント (3) 酸素の供給：酸素吸入、酸素ポンベの取り扱い	講義	
7	2	(4) 呼吸困難を示す患者の呼吸を整える技術の実際 ・酸素吸入、酸素ポンベの取り扱い・体位の工夫	演習	
8	2	(5) 呼吸困難を示す患者の臨床判断演習	講義 GW	
9	2	3) 腹痛のある患者の看護 (1) 腹痛のメカニズム (2) 腹痛を示す患者の観察とアセスメント	講義	
10	2	(3) 腹痛を示す患者の臨床判断演習	講義 GW	
11	1	3. 臨床判断モデルを用いた思考過程のまとめ	講義	
12	2	4. 化学療法を受ける患者の看護 1) 化学療法における看護師の役割	講義	
13	2	2) 化学療法を受ける患者への援助の実際 ・事例を用いて	講義 演習	
14	2	5. 放射線療法を受ける患者の看護 1) 放射線療法における看護師の役割	講義	
15	2	2) 放射線療法を受ける患者への援助の実際 ・事例を用いて (線量計・プロテクター等)	講義 演習	
16	1	終講試験		

授業形態 講義および演習

評価方法
点数配分 筆記試験 70点 課題 30点
他の事項については履修規程の第5条、第6条に定めるとおりとする

テキスト 臨床看護総論 : 医学書院
根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 : 医学書院
看護がみえるvol.3 フィジカルアセスメント : メディックメディア
看護過程に沿った対症看護 : 学研

その他 ※この科目は実務経験のある教員による授業科目である

【専門分野】

科目	単位 (時間数)	年次	開講時期	担当者
※看護研究	1 (30)	2	第1・2学期	教育主事
目 標				
1. 研究の基礎を学び、看護実践を科学的に展開する基本的姿勢を身につける 2. 事例を通して看護を振り返り、看護に必要な研究的態度を身につける				
ディプロマポリシーとの関連：DP7、DP4、DP1の達成に寄与				
回	時間	授業内容	授業方法	備考
1	2	1. 看護研究の基礎 1) 看護実践における研究の意義 2) 研究に関する倫理	講義	
2	2	3) 看護研究の目的と種類 ①研究デザイン	講義	
3	2	4) 研究のプロセス ①研究動機の明確化 ②文献探索	講義	
4	2	4) 研究のプロセス ③研究目的、研究方法、研究計画書、データ収集と分析	講義	
5	1	5) 研究論文のクリティーク (査読)	講義	
6	2	6) 研究プロセスにそった研究計画書の作成 ① 文献検索・計画書作成	演習	
7	2	研究プロセスにそった研究計画書の作成 ② 計画書作成	演習	
8	2	2. 事例研究 (ケース・スタディ) 1) ケーススタディとは 2) ケーススタディの実際と発表 ①ケーススタディの進め方 ②ケーススタディ計画書について	講義	
9	2	③論文の構成 ④評価の視点 ⑤抄録の作成 ⑥発表準備と方法 ⑦講評	講義	
10	2	3) ケーススタディクリティーク	講義 演習	
11	2	4) ケーススタディの作成①: ケーススタディ計画書作成・文献検索	演習	
12	2	ケーススタディの作成②: ケーススタディ計画書作成・文献検索・原稿作成	演習	
13	2	ケーススタディの作成③: 原稿作成・発表準備	演習	
14	2	5) ケーススタディの発表・講評①	発表	
15	2	ケーススタディの発表・講評②	発表	
16	1	終講試験		
授業形態	講義および演習			
評価方法 点数配分	100点 (筆記試験40点、研究計画書20点、ケーススタディ40点) ケーススタディの発表までの過程 (計画書作成から発表まで) で総合的に評価 他の事項については履修規程の第5条、第6条に定めるとおりとする			
テキスト	看護研究 : 医学書院			
その他	ケーススタディ計画書の作成段階から発表までを通して個別指導を受ける ※この科目は実務経験のある教員による授業科目である			